

令和6年度森林吸収源インベントリ情報整備事業中部・近畿ブロック現地講習会報告

開催日：2024年5月28日（火）～5月29日（水）

時間：（5月28日）8時45分～10時40分、（5月29日）8時45分～16時40分

場所：岐阜県高山市（格子点ID：210550）

受講者：（株）GTフォレストサービス（5名）

講師名：岡本透（責任者）、伊藤江利子、渡壁卓磨（森林総研関西支所）、釣田竜也（森林総研立地環境研究領域）

場所の概要：尾根部にヒメコマツ、斜面上～中部にナラ類、斜面下部にホオノキ等が優占するやや急傾斜の広葉樹林であった（写真4）。下層植生は疎で見通しがよくラインの設定や枯死木調査は容易だったが、大礫が出現し土壌採取が困難な土壌断面もあった。

講習会概要：大雨のため講習会日程を一部変更した。受講者の荒天時調査中止の判断基準を参考に（写真1）、初日は受講者の先導で到達経路および調査杭の確認を行った（写真2）。受講者は帰路でより安全な到達経路を確立していた。2日目は受講者4名、講師2名の体制で実施した。受講者全員でライン設定および枯死木調査を行った後、各方位1名ずつが土壌断面調査を実施した。経験の浅い受講者が担当した北地点では講師1名が常時確認と指摘を行う一方で、東南西の3点は別の講師が巡回して指摘を行った。

指摘事項：

- ・荒天時の対応を確認・指導した（写真1）
- ・萌芽幹の一部が枯死し、一部が生残している株立ち個体の対応について。高さ1.5m以下の枯死幹は根株としてカウントしないが、高さ1.5m以上の枯死幹は立ち枯れ木としてカウントすること（写真5）
- ・ヒメコマツの細い針葉のリターもできるだけ採取するが、土壌が付着しはじめているリターを採取するかどうかの基準は手で払ったときに動くかどうかであること
- ・断面整形で堆積有機物層を切る際の堆積有機物の押さえ方は軽く押さえるに止め、堆積有機物層と鉍質土層の境界が圧縮されるほど強く押さえないこと
- ・土壌断面を整形する際の剪定鋏はよく切れるものを用いること
- ・断面に大きな礫が現れる場合は、定体積試料の採取が困難となる可能性を事前に考慮し、採取位置や採取順序を検討・計画する必要があること（写真8）
- ・土壌円筒からはみ出した礫は根気よく剪定鋏で切ること
- ・仮杭の撤去を忘れないこと（写真11）

全体講評：受講者の調査方法に大きな問題は見られず、悪天候時の状況判断も適切であった。経験の浅い受講者も複数回の受講により着実に技術を身につけており、堅調な調査の遂行が期待できる。



写真 1 荒天時の対応を口頭で確認 (5/28)



写真 2 雨の中でのプロットの確認 (5/28)



写真 3 調査用具の確認



写真 4 N 地点付近の林相



写真 5 株立ちした枯死木の対応を確認



写真 6 根株の測定



写真7 土壌調査地点の関係

(S地点の上方にE地点が写る)

S地点の上方にE地点が、W地点の上方にN地点が位置していたため、掘削、整形時に上方の調査位置から石が落ちることがあった。その際は「ロック」と声かけをして注意を喚起した



写真8 礫の多いE地点の土壌断面



写真9 読み上げながら野帳記載内容を確認



写真10 混合試料の作業



写真11 終了時の仮杭撤去について注意喚起